

平成26年度道徳教育に関わる現状と課題

部長 本間 辰彦

1 道徳教育の動向

各地区では昨年度同様、「自己の生き方」を考える道徳授業の在り方について研修を積み重ねている。各地区の概要を紹介する。

【上越地区】

上越市では清里中学校の実践を通し、視覚的カリキュラムを用いたカリキュラムマネジメントの有用性を再確認している。また、体験的活動と関連をもたせながらの授業の構想が重要であることも共通認識した。一方、学校実態に違いがあり容易に研究成果が自校化できないという課題が明確化している。**糸魚川市**では即興的な役割演技の監督の役割に注目し、ウォーミングアップには、①学習の仕方を理解しよい観客を創るもの、②各時間のなかで演者を創っていくものの2種類両方とも大切である、とした。**妙高市**では「道徳の教科化」に向け、他者の見方との交流を図るような指導過程が大切になってくることを確認した。課題を「評価の在り方はどうあるべきか」とした。**柏崎刈羽**では各部員が児童生徒の実態に合わせた「道徳マイプラン」を作成し指導力の向上に努めている。全教育活動と道徳の時間を深く関連させることが課題である。

【中越地区】

南魚沼郡では「私たちの道徳」の授業構想案冊子とCD-Rを作成し地区内全小学校に配布した。**魚沼市**では郷土の偉人 宮柊二について講話を聞き記念館を見学した。何をどう教材化するかの見点を深めることができた。**見附市**では講演会から、①実践の記録を大切にすること、②道徳の歴史年表・内容項目の関連表・学級における道徳指導計画をそろえることが共通理解された。**燕市**では児童生徒に資料を認識させること、価値を理解させることが重要として共通理解した。自分と照らし合わせるとき、①他人事にしない、②弱い自分に気付かせることに留意した。**三条市**は「モラルスキルトレーニング」の実践力向上を図った。**十日町市**は3年間の試行を経て今年度から全中学校区で小中一貫教育が始まった。研修から教科化の準備として教科書、免許、評価の3点の研修課題をつかむことができた。

【下越地区】

五泉市では構成的グループエンカウンター（SGE）講習会から「SGEそのものが道徳ではない」という点を共通理解した。**新発田市**では市の学校教育の指針である「豊かな心を育む教育の推進」を3本柱の一つとして「共生」の心を育てる道徳教育の推進を目指した。**村上市・阿賀野市・佐渡市**は授業研究を1回ずつ開催している。阿賀野では「私たちの道徳」が複数学年使用のため副読本との関連表をつくることの大切なことを学んだ。佐渡では研修を通して資料の分割提示（1主題2時間扱い）の仕方について学んだ。

【新潟市】

新潟市は年間5回の全員研修を開催している。授業研究では市教委の提唱する「問題解決型授業」を具現化することができた。児童の「ハートメーター」を使うことにより主人公の心情を示させたことで心情の可視化が可能となった。

2 道徳教育の課題

どの地区の部会においても、①道徳の教科化について、②「私たちの道徳」の活用について、の研修に重点が置かれている。また、家庭・地域社会が道徳教育に果たす役割を充分認識し、協力体制と整えるとともに連携の在り方を模索していくことが必要である。